

新聞掲載記事より

【質問】「地域完結型医療」といふ言葉を時々耳にしますが、どういふことですか。

(60歳・会社員)

地域完結型医療

【回答】わが国の医療は1枚の保険証で、いつでもどこでも、誰もが平等な医療を受けることができる「国民皆保険」が特徴です。

ただ、それ故に、軽い病気でも大病院を受診したり、時間外に救急病院を訪ねたりするなど、安易な受診が行われる陰の部分もあります。

そして、わが国では高齢化が急速に進んでいます。高齢の方は一人で多くの病

病院・診療所が連携

をはっきりさせ、きちんとした役割分担の中で医療を行うことが大切です。



医療ではホームランバッターはさしずめ高度医療や高額医療機器を持つ基幹病院であり、その前後を固めるのが中小病院や開業医です。これからの時代、全ての医療を基幹病院で行って病気の完治を目指すのではなく、地域の病院、診療所

気を抱えており、病気の回復にも時間がかかるものです。これらの問題が重なり合って、医療費の増大、医師不足、医師の疲弊など医療崩壊といわれる状態に陥っているのが現状です。

例えば、野球でホームランバッターを集めるだけですが、チームを強くする手段ではありません。内野安打で堅実に出塁するタイプや送りバントの達人など、いろいろな選手がいます。その能力に応じて役割を明確にし、連携・機能させることが大切です。

得意分野を生かして病気を治すことが重要です。まず重症の患者さんは大病院(救急病院)で急性期の治療を行います。そこで治療が奏効すると、回復期の病院に転院して体力回復、機能回復のための後療法、リハビリを行います。その後は自宅や介護施設で

得意分野生かし治療

開業医の診察を受けながら生活します。状態が悪化すれば、開業医の紹介を受けて高度な検査・治療を受けることができる病院に戻るのです。こうした連携をスムーズにすることで患者さんは地域で安心して暮らすことができます。勤務医の負担を減らすこともできます。このように地域の医療機関が連携し、あたかも一つの病院のごとく切れ目のない医療を行うことを「地域完結型医療」と呼ぶのです。医療資源を有効に活用して、誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らすことができる長崎県をつくるためには、県民の皆さんの理解と協力が不可欠なのです。(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。